



川中便り

平成31年 1月31日(木)発行

新発田市立川東中学校

学校便り 第10号

平成の終わりに－思い出す歌「オワりはじまり」

校長 三村 孝志

平成最後の年、2019年も1か月が経とうとしています。十二支では、亥年です。新発田市立川東中学校は昭和22年創立ですから、人間でいえば、亥年の生まれということになります。

猪肉は昔から万病に効くと考えられており、無病息災を象徴しているのだそうです。猪肉を用いた鍋料理は、ぼたん鍋と呼ばれ、農林水産省選定の郷土料理百選では、兵庫県の郷土料理とされています。郷土料理百選では、新潟県はのっぺと笹寿司が選ばれていました。

猪といえば、やはり「猪突猛進」という言葉が思い浮かびます。「イノシシがまっしぐらに突進するように、まわりやあと先のことを全く考えないで、ただひたすら目の前の目的に向けて、つき進むこと。」という意味から、「一途で情熱的」とも感じられますが、私には「思慮深さ」がないようにも感じられ、亥年の生まれとしては残念です。

さて、平成の時代が終わり、新しい時代が始まろうとする今、ずいぶん前に聞いた曲を思い出しました。沖繩出身のバンドで「かりゆし58」が歌った「オワりはじまり」という曲です。とてもいい曲だと思い、車の中でよく聞いていました。

歌詞の一部を紹介しましょう。

もうすぐ今日が終わる やり残したことはないかい
親友と語り合ったかい 燃えるような恋をしたかい
一生忘れないような出来事に会えたかい
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい

とはじまり、

またすぐ明日が変わる 忘れてしまっていないかい
残された日々の短さ 過ぎ行く時の早さを
一生なんて一瞬さ 命を燃やしてるかい
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい

もうすぐ今日が終わる もうすぐ今日が終わる
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい

と終わります。

ユーチューブにPVも公開されているようですから、興味のある人は視聴してみてください。

今、みなさんが生きている時間は「かけがえのない時間」であり、二度と経験できない時間です。「一生なんて一瞬さ」には、賛成・反対があるでしょう。短いとも長いとも言えるからです。しかし、今、しななかったことは、あとでしたとしても同じことではあり得ません。親友と語ることは、何回もあるでしょう。でも、話したいと思ったその瞬間に、思い浮かんだ内容を、全く同じ気持ちで語ることは二度とできません。同じ内容を語っているつもりでも、同じ気持ちで語っているつもりでも、同じということはありません。みなさんが生きている時間は「かけがえのない」、つまり「たいせつで、なにものにもかえられない」時間です。「中学校三年間」とまとめて言えるけれど、一日一日をよく見てみるなら、一年生のときの時間は、二年生のときとやはり違う時間です。どの学年の生活も、学校に来て、勉強して、給食を食べ、掃除し、部活動に参加し、帰宅するという、同じことの繰り返しのよう感じられるかもしれませんが、実はそうではないのです。

あと先考えない「猪突猛進」では困るけれど、今生きている時間は、かけがえのない時間なのだから、「こうしたい」と思ったら、まず動いてみる事が大事です。

自分に問いかけてください。「やり残したことはないかい」、「親友と語り合ったかい」、「かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい」と。

若いときに、どのようなことに出会い、何を学び、何を聞き、誰と、どのようなことを話し、何に感動し、何を悲しみ、何を喜び（ほかにもたくさんありますが）、それらのすべてが、大人になったときの自己の核を創っているのです。

「もうすぐ今日が終わる やり残したことはないかい」